

法匠会報

法政大学 工学部 建築学科 同窓会会報

第34号 | 2000年11月30日

発行所 〒184-8584
東京都小金井市梶野町3-7-2
振替口座 1-89264
TEL・FAX (042) 387 6385
法政大学工学部建築学科同窓会
発行人 鬼木 猛
編集人 会報編集委員会

第13回 法匠セミナー開催

卒業生の神谷博君が講演

「建築と生態学」をテーマに新風

神谷博君は在学中から一貫して、環境保全の運動に熱心に取り組み、大学院修了後、大谷幸夫事務所で「環境庁公害研究所」や「沖繩コンベンションホール」などの設計監理を担当、独立後、我が国最初の環境共生住宅のひとつ「ルミナス武蔵小金井」「エコステーションかるがも館」などを設計し、建築のデザインと環境保全の問題に一貫して強い関心をもって設計と執筆の



活動を精力的に続けてきた。現在、「建築生態学」という新しいテーマを掲げて執筆や法政での非常勤講師として活動している。

今回は山田委員長のアイデアでいろいろと新しい試みが行われた。口の字型のテーブルを囲んでお互いに顔を合わせて議論を交わす第2部の様子。

第13回法匠セミナーは10月28日(土)午後1:30より本校大学院棟跡地に新築されたボアソナードタワー26階において開催された。

第1部は実行委員長山田 清君(74卒)の司会の進行で行われ、神谷 博君(74卒)による「建築と生態学」と題する、生態学に根差した多様な活動と作品のスライド等をまじえた紹介がおこなわれた。

第2部はコーヒーブレイクをはさみ、1部の議題をうけて大江 新先生、1部講師の神谷君そして小川 格君(66卒)に進行役と

して加わっていただきディスカッションが行われた。2部は円卓とし、途中からビールが配られたせいもあり、鋭い質問も飛び出し、議論が闘わされた。

出席者は50名弱であったが、電気大学や関東学院大など他大学の学生や一般の参加もあり、逆に出席者の顔が見える、中身の濃いセミナーとなった。今回はじめての新しい形のセミナーの試みは大きな成果をあげ、成功したといえよう。二次会は市ヶ谷付近のベースメント(場外)となり遅くまで議論に花が咲いた。

建築の基礎としての生態学

21世紀は環境と情報の時代といわれています。建築にとっても大きな関わりがあり、すでに環境共生住宅や多くのエコロジカルなデザインの試みが始まっています。私もこの10年来、建築や造園、土木、まちづくりといったさまざまな分野でエコロジカルなデザインに取り組んできましたので、それらの概略をご紹介します。

環境の問題は個々の領域に区分されたものではなく、すべてが一連のつながりをもっています。人や生き物、水や土、建築や土木、思想、哲学、あらゆるものどうしの関係を取り扱う分野、それがエコロジーです。また、それこそが建築であるともいえます。それもそのはず、もともとエコロジーと建築の語源はともにオイコス(家)で同義なのでから。

今年から建築学科の「生態学」の講義を受け持ってみて、それが今話題となっている総合的な学習そのものであると改めて感じました。これからの建築教育をどのように考えていくか、といったことも併せて一緒に考えてみたいと思います。(神谷 博)

新年会(総会を兼ねる)のご案内

日時：2001年2月2日(金)午後6時
場所：アルカディア市ヶ谷(私学会館) 6階 阿蘇の間
千代田区九段北4-2-25 (JR市谷下車5分)
電話：03-3261-9921

会費：8,000円
21世紀最初の新年会です。建築を取り巻く情勢は依然として厳しいものがありますが、旧交を暖め、情報を交換し、楽しいひとときをすごしましょう。

会費納入は自動払込みで

「法匠会報」は皆さまの納める会費で作られます。会費納入に御協力下さい。

同窓会費は年3,000円郵便振込みで納入いただいております。なお自動払込みの方法も設けてありますのでご利用下さい。

1：郵便貯金通帳のある方

郵便局窓口で「自動振込利用申込書」にお持ちの通帳の口座番号、住所、氏名をご記入捺印の上、窓口に出していただくだけで、簡単に手続きは済みます。

2：郵便貯金通帳のない方

郵便局の窓口で通帳をおつくりいただき、前

記1の手続きをしてください。

3：それ以外の方

会報と同封の払込取扱票(手数料なし)にてお願い致します。その他は郵便局にて振込用紙に下記の宛名と口座番号をご記入いただき、ご協力お願いいたします。

口座番号：00110-5=89264
加入者名：法政大学工学部同窓会
住所：東京都小金井市梶野町3-7-2
同窓会事務局 電話 042-387-6385

アンケートご協力をお願い

今回、法匠会報にアンケートを同封してお届けしました。日ごろ皆様のご意見ご要望に目が行き届かないことも少なくないと思います。この機会に、同窓会にご意見をお寄せください。

新しい時代にふさわしい同窓会に衣替えしてゆくために、皆さんの知恵を貸してください。

倉田康男先生逝く

1965年から97年まで32年間にわたり、非常勤で教鞭をとり、ゼミ、私塾ピンクハウス、高山建築学校を通して、学生たちに不屈の建築家魂をたたきこんだ倉田康男先生が闘病生活ののちついに倒れた。一貫して先生を支えた趙海光君に先生への思いを書いていただいた。

倉田康男の「不機嫌」の歴史性

趙 海光（1972年卒）

2000年7月14日、倉田康男が死んだ。病床で、文字盤を指しながら、タカヤマガッコウ、ドウスルと綴ったのが最後の言葉だった。倉田は無念だったろうと思う。

倉田はいつも不機嫌だった。大学、学生、建築、みんな気にいらず、大学の外部に私塾を開いた。「ピンクハウス」と呼ばれたそのプレファブ小屋でも、ヤワな学生を前にやっぱり倉田は不機嫌で、ついには街を離れた山奥に私設の学校を開いた。

倉田が嫌い抜いたものは商品化された建築だった。建築という魂の形式が、商品として汚されていくさまが倉田には耐え難かった。だから倉田は商行為としての設計事務所を放り出して、私財を投じて高山建築学校に賭けた。そのことを、しかしヒトはだれもホメず、応援せず、遠く見守るばかりだった。

倉田に率いられた高山建築学校は、建築界という大陸から孤立し、漂流する島だった。1972年、吹き荒れる近代批判の風を背にして、商業主義に汚された大陸を離れ、建築のユートピアをめざして漂流しはじめた島。それはかつてのテレビ人形劇「ひょっこりひょうたん島」のその後の姿ではなかったかと、実は今頃は



ひそかに考えている。サンデー先生に引率された「みなし児たち」とはつまりぼくら高山建築学校の学生たちであり、海賊トラヒゲは石山修武であり、孤独を愛する元ギャングのダンディは鈴木博之だった。

倉田康男はユーモアを欠いたドン・パチョだったが、このユートピアを欠いた不機嫌こそが、おそらくは高山建築学校という孤島をどこにも漂着させなかった根源だったろうと思う。建築にかぎらず、人間の精神活動を「形式」として完成することは明治維新以降の知識人にかせられた最大の課題だった。それは、西欧から移入された「形式」と在来の「精神」との矛盾を一人で引き受けて不機嫌に生きざるをえないタイプの人々を生んだ。倉田の不機嫌な生と不機嫌な死を前にして、残された「みなし児」の一人としては、その筋金いりの不機嫌の歴史性を考えざるを得ない。

人いろいろ

渡辺真理先生がJIA新人賞

渡辺真理先生が夫人の木下庸子さんとともに2000年度JIA新人賞を受賞。対象作品の「NT」は仕事をもつ夫婦と子供の住宅で、ほとんどの空間を共通のライブラリーとリビングの大空間とし、個室は最小限。先生の年来の主張である「非核家族」の住宅を金属質の美しい空間に実現。「先鋭な都市型住宅を提示した」と高い評価を受けた。

宮本五月夫君が都市公園コンクール受賞

横浜市の「原田橋公園」で日本公園緑地協会主催の第16回都市公園コンクールで建設事務次官賞を受賞。



たるき

女性ネットワークの4人が初秋のヘルシンキ（フィンランド）を訪れた。この旅行ではヘルシンキ在住の吉崎さんによって丁寧かつ、詳しい説明を受けることができた。

ヘルシンキの中心部に現在進行中の大きなプロジェクトを見学した。それはテレー湾の水際線をより内陸の方へ。つまり、中心部に近い所まで水を引き込み、都市の親水性を高めようとするものであった。

ユニークなのはこのプランの提示方法である。水面となる部分を青い砂利、青い舗装、青い花によって示していた。さらに、その場所にコンテナハウスを設置し、プロジェクトの企画書、模型、現状航空写真など、関係資料が所狭しと並べられていた。一般的な都市計画に関する資料も特別に安く売られていた。

市民の協力、関心を得るための分かり易い展示に非常に感心した。実際、多くの人々がそこを訪れ体感し、話し合い、何度も計画案が手直しされてきた。ヘルシンキの人々には都市は市民共通の財産であり、その都市を良好に保つこと、それに協力するのは当然「市民の義務である」との共通の認識があるのではないかと。

都市の維持管理の方法がまたすごい。開発の権限は地方自治体にあり、ヘルシンキ市では、ヘルシンキ市の都市計画局が全権を握っている。さらに、ヘルシンキ市の土地の約8割が公共の所有となっている。計画的に都市の成長を管理するための手段が完璧に整備されていると言えるだろう。

日本の現状を考えれば、羨ましい限りだ。このようなヘルシンキの試みは都市のあるべき姿を示していると思う。しかし、見た目には美しいが歩き難く、車椅子では最も通り難いピンコロの歩道と言う矛盾した現実もあった。（安）

編集委員会 岡本 真（1970年卒）
小川 格（1966年卒）
安藤照代（1967年卒）
永瀬克己（1968年卒）
石黒豊明（1972年卒）
安井太郎（1981年卒）

PRE-STRESSED CONCRETE プレストレスト コンクリート

KTB・PC圧着工法
KTB・SCテンションシステム



黒沢建設株式会社

本社：東京都新宿区西新宿8-20-2(アイリスビル) 電話03(3371)3573(代)
営業所：大阪・名古屋・仙台・福岡・札幌・山梨
工場：秦野・苫小牧・島根

お元気ですか

都市の視点から建築を問い直す 佐保 肇君

佐保さんにお話をうかがうために訪ねたのが、池袋サンシャインビルに隣接する古い建物の密集する一角。そこに新しいプレハブの現場小屋がある。日本設計が進める大規模な再開発計画の工事事務所だ。中には巨大な超高層集合住宅が二本建っている模型がある。これはスケールの大きな話になるのかと緊張したが、佐保さんのお話は極めて常識的なもので終始ユーモラスな暖かみが漂っていた。



佐保さんは佐々波先生のもとで都市計画を学んだと聞いています。

私は宮脇ゼミなんです。しかし、学部・大学院を通して学んだのは大江先生です。追分の山荘や上馬のご自宅へ押し掛けて夜遅くまで、よくお話を伺いましたね。建築に対する基本的な考え方は大江先生から学んだと思っています。大学院へ入ってから佐々波先生について本格的に都市計画のご指導を得ました。

日本設計に入ってから都市計画を？

いいえ。ぼくはずっと建築と都市計画の両方をやっています。建築の設計は今でも誰にも負けないくらいやっています。毎年2つか3つは竣工してますよ。地域の計画をやっても、大きな建築は社内の建築の方へ行くんですが、ハウジングとかさほど大きくないものは、ぼくが設計することになるんです。

仕事の中で、印象に残るものは？

大きいものでは、筑波学園都市の工業技術センターとかいろいろありますが、ハウジングでは15年ほど前から一貫してテラス入り住宅をやっています。庶民の暮らしでは玄関より縁側から出入りするのが普通でしょ。テラスも広くとってね。

それはめずらしい。

今は形が面白いだけがもてはやされてますけどね。ぼくはそんなものに興味ありません。都市計画といってもそんなにおおげさなことではなく、身近な問題から考えていくものと考えています。

昨年、ドクター論文を書きましたね。「コンパクトシティ」ですか。

そうです。昔の都市は小さかった。なぜ拡大したのか解明を試みました。この分野の論文はほとんどないんです。

徒歩で生活できる都市ということですか。

そうです。地方の都市へ行くと学校も工場も働く場所がみんな外へ出てしまった。中心の商店街がさびれて、人影がない。高齢化した地方の都市は悲惨ですよ。若いときは車があるから、拡散していても気にとめない。しかし、歳をとって車に乗れなくなると、みんな家の中に閉じこもって、孤立してしまう。過疎地帯のように車で廻っ



福田団地（1haに100戸）テラス入り住宅の最初の実例



長崎県大島町、浜町団地

略歴

1966年 法政大学工学部建築学科卒

1970年 大学院修士課程修了

1999年 工学博士取得

現在 日本設計プロジェクト本部



公園の中に建つ展望台



竹芝再開発、現在このプラン通り完成しています

てくる引き売りだけが頼りです。

どうすればいいんですか。

最近、ある町で町長を説得して役場のすぐ隣に工場を作ったんです。普通は田んぼの中に作る場所を中心部にした。その工場には200人が働いている。これでその町の就業者の5%が街の中心部に帰ってきたわけです。

商店ではなく工場ですか。

最近、商店街の活性化ばかり言われているけど、違うんです。働く場所を中心にもってこなければ人が来るわけがない。消費の場所ではなく生産の場所にしなくてはならない。だから、工場を真ん中につくったんです。中心部の仕事場が出来ればみんなついてきます。もう商店街の時代じゃないんです。

都市と建築の間ですか。

建築家でなければできないことがいっぱいあるんです。頼まれた建築だけでなく、周りの環境を再構成する視点が最も大切だと思います。立体的な空間を身近なところからつくっていくのが建築家の職能なのではないでしょうか。

建築構造設計者のベストパートナー

建築構造設計プログラムの開発・販売・サポートを通して構造設計の品質向上に貢献します。



ユニオンシステム株式会社

ホームページアドレス : <http://www.unions.co.jp>

東京支店 千190-0022 東京都新宿区新宿1-14-12	玉座ビル5階	TEL 03-3352-4121
大阪支店 千542-0012 大阪府中央区谷町5-1-16	桂屋ビル3階	TEL 06-6768-8338
名古屋支店 千461-0002 名古屋市東区代官町34-27	イ・エビル3階	TEL 052-933-6811
仙台支店 千960-0811 仙台市青葉区一番町1-8-10	京成ビル5階	TEL 022-213-7251
上海市浦东区浦東大道2507號301室	上海申匯聯合軟件有限公司	

ユニークな My House

建築学科の卒業生だからユニークな家に住んでいる人が多いだろう、と考えて募集したのだが...意外に集まらない。かなり独特な家に住んでいる人もいるそうだが、頼んでもなかなか写真を出してもらえず困った。我が法政の卒業生は大変控えめなのか、案外ほとんどの人が普通の家に住んでいるのか...。もう少し積極的に自分をアピールしてもよいのでは...と編集子は悩んでおります。

「ユニテ」が...お手本です

金沢良春 (1972年卒)
東京都保谷市

一昔前まで建築家と名乗る以上は、それにふさわしい家に住むことが求められた。しかしながら時代は変わった。日々を誠実に健全に過ごそうと思えば、増改築を繰り返すことになる。設定した生活は2年もすれば変わる。親の家の一部を改築し住み始めた。

この時は狭いスペースに2台のグランドピアノを入れることが、解決しなければならない問題であった。その後2人の子供の成長とともに子供のスペースを捻出することが問題となる。家族でマルセーユのコレピュジエの「ユニテ」を見学、極小の2260mmの立体の中にベッドまで納めていることを確認して、我が家も2260mmの中のワンルームを2260で分け合って2人で使っている。

しかしこれも成長とともに限界に近づいている。2階の居住部分には、3回目の改築の時に鉄骨のスライディンググループ付の3階を乗せ、初めの天井の低いギリギリ設計を補った。ポリカーボネートのポルト天井は、部屋いっぱい、昼は日の光、夜は月と星の光で満たされる。雨だけが降らない屋外同様の空間になっている。

現在我が家が直面する問題は、電気機械の電子化によって壁の中に埋め込まれている配線が、フレキシブルに対応できずに使いものにならなくなってきたことである。さらなるステップアップのためにここをクリアする必要がある。



少し派手ですが...木造

小林克敏 (1972年卒)
香川県高松市

私は仕事柄、住宅の設計をする機会が多いのですが、自邸となると普段でできないことができる様です(住宅の場合、奥様の意見は絶対ですから)。まず、一見コンクリート造に見えますが、実は木造です。建設当時はバブル全盛時。建設費高騰のためコンクリート造を断念。木造でコンクリート造風に見せようというのが、一つのコンセプトでした。外壁の仕上げはモルタル塗り目地切下地にメタリック塗装というローコスト仕上げです。ところが、手仕事である左官仕上のモルタル面が適当に荒々しく、メタリックの微妙な艶と合わせ、陶板を貼った様に見えます(結果的にですが)。

私は住宅は外部から身を

守るためのシェルターだと考えています。ですから外観はあくまで冷たく寒色系(グレー、シルバー) 逆に内部は木の色を中心とした暖色系の色でまとめています。

建設当時、右側の駐車場には民家が建っていて、この面はほとんど隠れていました。ところが、最近隣家が解体され、写真の様に目立つ存在となりました。近々、我家の外壁面を若いアーティスト達の作品発表の場として無料で提供しようと考えています。



エアコンは...ありません

石黒豊明 (1972年卒)
横浜市鶴見区

「玄関、畳、押入、床の間、子供部屋などいらない。全部板の間の普通の家がいい」と妻が言うので、我が家はそんな100m²ワンフロア、ワンルームだ。そのうち30m²を占めているのが居間で、家族それぞれの机と共有の工作台がでんとある。この工作台でこどもの勉強机、収納、2台のベッドもつくった。台所、洗面所、風呂場の収納は妻がコツコツと考えつづけてこれまで80冊以上の雑誌に紹介されている。

普通の家と違うのは実はエアコンがない。だから夏は客が来ない。一応来客用の扇風機は出しているのだが回ることがない。替わりにあるのがスミスアンドホーケン社製の公園用チークのベンチが2台。居ながらにして気分はケンジントンパークの木陰の昼寝だ。暑い日ほど快適だから当分エアコンは不要。そんな暮らしを書いてみないかと出版社からの一本

の電話で妻のエッセイが出ました。『大人のための素敵な良品生活のすすめ』PHP研究所 石黒智子著 1,100円



活きている事の喜びを体感出来る
空間造りをめざしています

(株)クローネ設計企画

代表取締役 松尾 秀文
(1976年卒)

〒141-0022 東京都品川区東五反田1-11-7
電話03-3440-1199 FAX03-3440-0239
<http://www.krone-jp.com>
E-mail:matuo@krone-jp.com

我が家は永久に...未完成

山本秀代 (1967年卒)
東京都目黒区

25年前に建てた自邸は公庫融資のみで実現した倉庫に近い状態の建物でした。ドアノブの類から改修を加え、住まいの体裁を整えてきましたが、夫婦で住宅設計を生業としていると、こだわりの部分の調整とお金の制限で未だに一致を見ない部分があり、我が家は永遠に未完成です。

7年前までは内装などの小さな改修に留まりましたが、生活の変化と共に個室やオーディオルーム、アトリエが欲しくなり、建て直し案を考えました。しかし地盤の悪さ、廃材の問題、また何より愛着があるため、既存部を生かして住みながら増築をして今日に至っています。



自然素材で...健康住宅を

松尾秀文 (1976年卒)
東京都小平市

「いなかの家の良さを持つ家造りしたい」というコンセプトでこの計画はスタートした。住人は「私と妻と妻の母親の三人家族」と「妻の妹4人家族」の住む二世帯の長屋である。2軒とも1階に寝室等のプライベートルーム、2階にパブリックスペースをとり、ロフトには多目的に使われる和風スペースを配している。

地域とのコミュニケーションが自然に生まれるようにアプローチには門扉等のバリアは設けず、地階に独立型の多目的スペースと共同の収納スペースを確保し、

地域との様々な関わりの場とすることを考えた(現在、母と妻姉妹で書道教室を主催、将来はヨガ、太極拳、尺八教室等家族の趣味を生かした活動を予定している)。

建物が健康であれば、そこに暮らす人々も健やかでいられるとの考えに従い、出来るだけ自然の素材を使い、呼吸する家造りを心がけた。実際住んでみて、自

然の移ろいを体感出来る家になったと満足している。



身近かな本棚



「住宅設計in3D/CG」
川鍋明弘著 (1979年卒)
A4判160頁 CD-ROM付 商店
建築社 3,800円

実際の住宅プロジェクトに沿って計画段階から完成までのあらゆる場面で、3D/CGの使い方と効果を分かりやすく説明。

ユーザーインターフェイスのよいといわれるCAD&3D/CGソフトとしてVectorWorksとRenderWorksの使い方をユーザーサイドから検証。実際の住宅設計から監理までの作業に即して解説しているので、3D/CGと完成後の写真を比較できるのも興味深い。

<http://www.aec.or.jp/user/kawanabe>



「ワールドミステリーツアー13」
第9巻 地中海編
今村文明 (1986年卒) (共著)
A5判220頁 同朋舎発行 角川
書店発売 2,000円

おどろおどろしい題名にもかかわらず、内容は地中海の多少ミステリアスな文化遺跡を13人の著者が案内するまじめな本。その中の1編「モロッコの迷宮都市を彷徨する」を卒業生の今村文明君が書いている。曲がりくねった街路が縦横無尽に巡っているメディアナという旧市街がミステリーなのだという。この中に八百屋、肉屋、食堂、役所、教会まで日常生活に必要な全てがあるが、初心者にはなかなか出てこれないらしい。



「巨匠への憧憬 ル・コルビュジエに魅せられた日本の建築家たち」
佐々木 宏著
A5判460頁・相模書房・4800円

近代建築の中で、日本ではコルビュジエの影響力は決定的だ。今井兼次、牧野正巳、土橋長俊ら若き建築家達がパリから新鮮な報告をもたらす。池田英夫、宮崎謙三、前川國男らが精力的に彼の著作を紹介する。コルビュジエにさまざまな形で関わった建築家たちの、生き生きとした言葉を通して、コルビュジエの素顔、日本の建築界の意外な側面が鮮やかに浮かび上がる。佐々木先生のコルビュジエ研究のピークをなす本。



「室内」2000.11

特集 建築家と共につくる 30代が家を建てる時代
5人の建築家の作品紹介と施主を交えた座談会が楽しい。この中の一人が趙海光君(72年卒)。施主との偶然の出会いからなんとなく依頼され、竣工するまでのエピソードなど大変興味深い。

全国どこでも
欲しい本が
翌日お手元に

建築関連図書1万冊が検索可能

<http://www.nanyodo.co.jp/>

本のタイトルや著者名が分からなくても
キーワードで簡単にさがせます。

南洋堂

〒101-0051 東京都千代田区神保町1-21
電話03-3291-1338 FAX03-3291-1340

CADの使い心地あれこれ

99年度常任理事会の席上、パソコンに関するアンケートを採った結果、52パーセントがCADを使っていました(平均年齢52歳)。コンピューターの機種は様々でしたが、CADは4種類でした。それぞれのCADを使いきなした4人に、使い心地について聞いてみました。これからキャドを導入しようと思っている方、あるいは現在使われているCADとその他のCADを比較してみたいと思っている方、彼らにより詳しい話をメールでたずねると、きっと色々楽しい話が聞けるとおもいます。

JW-CAD

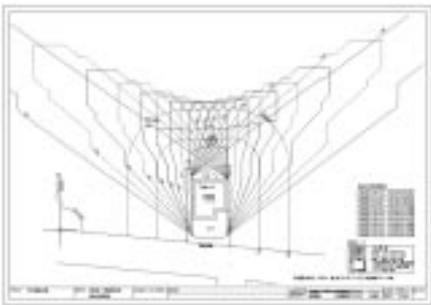


いちばん手書き
感覚に近い

八木聖一郎(1972卒)
(旧姓: 信保)
s-yagi@dab.hi-ho.ne.jp

このCADはフリーソフトだが、日影図や敷地求積表の自動作成など、通常の設計に必要な機能は十分に備えている。線描きだがパースも起こせる。しかもHDやメモリー容量が少ないパソコンでも十分快適に動く。高機能のCADはやはり高価な上、パソコンにも高い性能が要求される。となれば、わが赤貧事務所には他の選択肢はないと言うのが実情だった。

このCADが一番手書き感覚に近いと思う。鉛筆育ちの私には初期画面のコマンドが少なく日本語だというだけでも最初のハードルが低く感じられた。その割にマウスの左右ボタンと移動方向で各種機能が選択でき、習熟するほどに神業のようなスピードで作図できるらしい。無論、私には無理だが。近頃、3Dが可能な高機能のCADもマスターしたいとは思いつつ神輿が上がらない。困ったことだ。



DRA-CAD



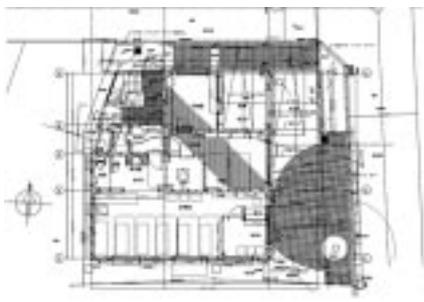
まだまだ面白い
機能がありそう

一ノ瀬和司(1973年卒)
wellbein@td5.so-net.ne.jp

このソフトを使い始めて8年程になる。3D等種々の機能があり、使いこなしていないのが現状です。その中の面白い機能を紹介します。画面上に数枚の図面を並べ、データのやり取りをしながら関連図面を同時に展開しつつ訂正等を行った

りできます。展開図、建具表の作成には重宝しています。(数台のモニターを同時に起動できればなおいい!)

近頃、スナップの時、ドラッグの方向によりスナップ機能の違いを発見。もっと手に馴染むよう、そろそろCADスクールへ行こうかと思うこのごろです。



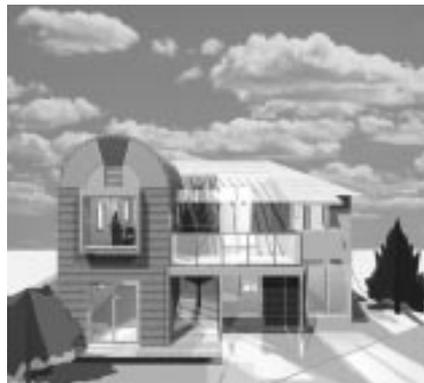
Vector-Works



デザインイ
メージを大切に
してくれる

中田好彦+相田武
nakada@hh.ij4u.or.jp

私たちの事務所で、CADを導入したのは約4年前。VectorWorks(以下VW)に、バージョンアップしたのは、1年半前です。VWのモデリングツールは2次元製図と一体で連動するハイブリッド構造になっており、四角形や円から、直方体、回転体などのモデルを生成する事ができる一方、等角投影、透視投影など豊富な投影方法を備え、2次元と3次元を自由に行き来できます。プラグインオブジェクトを使えば、既に3次元情報の入った建具や家具を簡単に作成することができ、レンダリングソフトを使えばより写実的な表現が可能です。製図道具としての従来のCADと



違いデザインイメージを表現する上でスケッチ感覚で使用できる製図環境を実現しているのがVWです。

JW-CAD、Auto-CAD等様々なCADの中なかでもデザインイメージを妨げない分かりやすいCADであると同時に、コンピューターの進化とともに発展し、より人間の創造力を刺激するようなCADになることを期待しています。

Auto-CAD

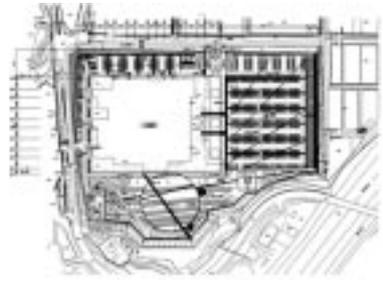


効率良い作図が
ストレスなく可能に

小林 仁(1986年卒)
hf-kobayashi@mug.biglobe.ne.jp

Auto-CADのユーザーとして、一番の使い心地の良さは精度が高いことだ。最近ではパソコンの高性能化に伴い、平面図の縮尺を変え詳細図として部分的に表現したり、A1に入りきらない平面図を分割せずに作成しながら、最終的には分割して印刷したりと、Auto-CADのマクロ機能を使い効率のよい作図方法がストレスなく可能になってきた。CADを導入して6年、ほぼ全員がCADを利用している。現在はAuto-CAD LT2000の利用が90%、残りの10%がAuto-CAD R14Jを利用している。まだまだ、3Dを含めたフルバージョンのR14は高価なため、3Dの作成は、他のソフトを使用し、作成しているのが現状であるが、模型というツールは欠かせないのも事実ではある。

ITばやりの世の中、ASP(アプリケーション・サービス・プロバイダー)のサービスが話題になり始めているが、世の中の需要からは小さいシェアのCADのソフトではあるのだろうが、CADのアプリケーションがASPのサービスに乗り、安価なレンタル料金により多くの人の知恵が踏襲され常に成長するCAD、たぶんそれは、建築設計支援ツールとでもいえばよいのだろうか...おぼろげながら、そんなもののシステムの実現が今後の追い求めるものかなーと考えている昨今である。



「私の逸品」「マイホームページ」

今号は休みましたが、あなたが自慢したいとおきの愛用品の情報をお知らせ下さい。あなたのホームページをご紹介します。

この頁に関するお問い合わせは下記へ
toy-ishiguro@col.hi-ho.ne.jp
石黒豊明(1972年卒)

法匠女性ネットワーク

第5回「総会」開催

パネルディスカッション
「街づくりのなかで考える」

第5回「総会」は5月13日（土）法政大学工学部小金井校舎に於いて開催されました。

2000年度代表に石川弥栄子さん（63年卒）が引き続き選出され承認されました。99年度決算・00年度予算案が審議され、承認されました。

パネルディスカッションでは、「街づくりのなかで考える」をテーマに街づくり事業や研究に積極的に携わっている寺本晰子さん、石川和代さんにお話を伺い、「街・地域・生活環境」について話し合いをいたしました。

まちづくりと公務員

パネラー

石川和代（修士95年卒）



生活をベースにしたまちづくりの方法論を学ぶために、東京は台東区の谷中界隈を活動範囲とする、まちづくりグループ「谷中学校」の会員になって8年。谷中のまちと人に魅せられ、今では台東区職員です。

就職以来、自治体の仕事と地域活動を両論として考えようとしてきましたが、それぞれとの距離感の取り方は、予想以上に難しいものでした。



個人としては地域活動に重心が傾きます。地方公務員が個人的に地元の市民活動に没頭するのは公平の原則に反するかもしれません。しかし、行政組織の中で歯車のように働くことが、本当にまちを良くするのでしょうか。地域活動をしながら公務員として働くことを自ら選んだとは言え、自分の居場所が何処なのか、時々判らなくなります。

それでも、それぞれの立場で出来ること出来ないことを肌で知りたいから、もう暫く二足のわらじを履いていこうと思います。その中で、自分の居場所も判ってくることを期待しながら。

小金井祭イベント参加 「アジアのまち・東京のまち」

国際協力事業団の保科秀明氏（68年卒）からは、多様な活動の一部、「ゴールデントライアングル」地域の芥子の実（麻薬）から蕎麦の実（食物）栽培への転換などの活動や、日本のまちづくり（活性化のノウハウ）が、アジアの若者により各国でのまちづくりに活かされている例など、ハードとソフト支援の一端をお話頂きました。



稲葉佳子氏（78年卒）は、大久保・新大久保のニューカマーズ・外国人居住について調査研究をされておられます。外国人の就労・学習の利便地として役割・ごくありふれた東京の木造密集地域が変わって行く様子。「国際化最前線のまち」の生の様子を、稲葉氏とその仲間たちの根気良く続けられたフィールドワークの成果を背景に説明頂きました。特におよそ十年前の、「ニューカマーズ単身層」の日本人社会との文化差異による軋轢の時代から、今日では「ファミリー層」の存在や、地域に定着しその地域社会と関係を持ち始めていった変化は、全国の、中心市街地の空洞化問題や現代のコミュニティの稀薄さなどと対比しながら、興味深く拝聴しました。

内容については、稲葉氏原稿「地域の国際化とコミュニティ」（『建築雑誌』2000年10月号）をお読みください。

「鯉のぼり」と「志賀高原・小布施」小さな旅

5月3日埼玉県加須市利根川河川敷公園にて町興しの一環として揚げる、ジャンボ鯉のぼり（川口先生が流体力学にもとづき監修）を見に行きました。今年は全長111m、重さ730kgの超ジャンボ級。大勢の市民や観光客、我々8名が見守る中、息を吹き込まれたかのような見事な遊泳はとても感動的でした。

6月17・18



日は志賀高原と小布施の町を訪ねました。草津廻りで志賀高原入り。宿泊地の丸池では、輝くばかりの若緑が歓迎してくれ、ロマン美術館（黒川紀章氏設計）昭和13

年築の旧沢沢邸等を見学後、小布施へ。参加者7名で、北斎館、高井鴻山記念館等々見学しながら町並みの修景を楽しみました。以前は個々が門塙で隔絶された町という印象でしたが、現在は北斎館に通じる栗の小径が路地空間を演出し、広場が憩いの場となり、オープンな町づくりに観光客で町は熱気に満ちていました。見学を通しての同窓生との楽しい交流はネットワークの醍醐味です。（梅松禮子70年卒）



フィンランドにて

女性ネットワークの4人は9月5日～2週間初秋のフィンランドを訪れました。ヘルシンキで真っ先に目に飛び込んできたのは真っ赤な実をたわわに付けた街路樹の七竈でした。そんなヘルシンキ市のキャッチフレーズは「地下空間と緑」。都市構造は都心を手のひらとすると、5本の指は幹線道路や公共交通機関、その間に緑と住宅地が入りこむ。生態系を重視し、緑地と緑地をネットワークさせる構想。歩行者、自転車用通路は幹線道路沿いに設けています。

さらに、95%世帯が地域冷暖房に参加し、環境汚染を少なく、快適な生活をおくる。正に環境重視。これはヘルシンキ在住の吉崎さんの受け売りです。

そんなヘルシンキの風景形成は19世紀初頭から始まり、元老院広場の周りには、大学、官公庁、大聖堂、マーケット広場。



アアルトの作品につけられたサインプレート

歩いて10～15分範囲の商業中心地。海岸から数マイル沖へ行けば、小さな島々、別荘、ヨットクラブ等。半島の東端、海に挟まれた狭い地区には、フィンランドイアホールをはじめとする公共施設が建ち並び、港に面したエンソ・ゲートツァイト・ビル、丘の上のウスペンスキー寺院は、海からのランドマーク。建物の高さが規制されている為、町を遠くから眺めると木と建物が同じ高さで一体化しているのが印象的でした。

そして、アアルト三昧をした私達は本場のサウナを体験すること無く帰国したのでした。（安藤照代67年卒）

SCS建築設計製図講評会 3都市4大学を結んで

人工衛星を使って映像・音声をやりとりできるSCS（スペース・コラボレーション・システム）による建築設計製図講評会が前期の終わり7月15日（土）新設なった小金井キャンパスの西館マルチメディアホールにおいて開催された。

今年のSCS校は、昨年の鹿児島大学に加え、広島大学+近畿大学、そして法政大学と3都市4大学を結んで行われた。4大学から選りすぐった作品がコンピュータによるデジタル表現あり、模型や図面によるアナログ表現ありと次々にプレゼンテーションされ、時には厳しく時には賞賛され、発表した学生はもとより、4大学の他学年へも大きな刺激になったであろう。

工学部長 後藤剛史先生を 囲む会開かる

今年度4月より工学部長に就任した建築学科後藤剛史教授を囲む会が主催：後藤ゼミ会、建築同窓会で10月13日（金）夕、市ヶ谷のボアソナードタワー最上階（26階）で開かれた。黄昏れのビル街をはるか下方に望みながら、出口清孝発起人代表の挨拶ではじまった。

渡辺建築学科主任教授は、冒頭の挨拶で、「テニス上手の後藤先生のこと、是非向かうべきことにスマッシュ！で決めて下さい」と声援を贈った。続く懇談の中では先生方、後藤ゼミ卒業生、同窓会OB・OGなどから、工学部長という激務への労いととも、工学部の将来への期待やアイデアなどが時間の続く中、いくつもの輪になっていた。会の終わりには、後藤先生から、工学部全体の長として現在までの大学全体の動向、今後の工学部の方向性、社会を見据えた新たな教育組織の必要など、後藤ドクトリンをじっくりとうかがった。終始笑いの絶えぬ和やかな会であった。

「建築実務実習」の御協力に感謝

夏休みを有効に過ごすためにインターンシップとしての「建築実務実習」が同窓生のいる或いは教員の紹介による各所で行われた。その実習先は建設現場や設計事務所、構造事務所、設備事務所、インテリア・照明・ランドスケープ・ディスプレイなどのデザイン事務所、出版社等さまざまである。それだけ学生の希望は多岐に渡っている。実習を終えた学生の報告では、短期ではあるがプロの厳しさ、実務とは何か、それにより大学では何を学んだらよいかを実感している。

今回も多くの同窓生に協力、指導をいただいた。また受入の表明を戴きながら出身地でなく、希望者のいなかった事務所もある。ここに記して御礼申し上げたい。（担当：渡辺、阿部、古川、永瀬）、ご意見等問合せ：FAX042-387-6324 nagase@k.hosei.ac.jp 永瀬宛

予告：卒業設計公開講評会
2月3日（土）午後
小金井キャンパスで開催予定

アートによる地域おこし 越後妻有トリエンナーレで 大学院生「グランプリ」に

前報でアイデア入選の報告をした標記の院生グループが、2000年度「第1回法政大学学生チャレンジサポート」（法大）にも選定され、夏期7月20日から53日間現地にインスタレーションを行った。その結果一般公募の部で見事1等を受賞した。

このイベントは、越後妻有地域6市町村の地域振興プロジェクトの一環として開催。32国140名を超える芸術家が参加した大規模な野外アート展。出展作品は、水、光、風という農耕文化に、重要な環境要素の情報を苗に模して、光る棒状オブジェ（2000本程）でランドスケープを顕在化、それらの設置・回収の意をもって農耕プロセスを表現したもの。受賞者は小林司朗（現事務所勤務）、平山俊、渋谷正弘、難波寛明、大石弘、大塚泰助（渡辺M2）、今後も活躍を。



コンペ「エコファミリーハウス」に 3グループ（大学院生）が

今注目の建築家ドミニク・ペローが審査員の標記コンペティションに法政大学大学院生の3グループが入選した。佳作に「道ハウス」=立木を切らずにその間に居住/小野剛史・菊池慎也・多田匡孝・山本浩孝君（大江M1）。1次入選したのは「Bamboo Charcoal House」=竹炭壁の断熱、調湿、浄化効果を利用/石原篤・柚木吾朗（渡辺M1）・大須洋君（大江M1）、そして中橋哲史君（大江M2）である。

SDレビュー2000 岡田君入選

SDレビュー2000 第19回建築・環境・インテリアのドローイングと模型の入選展（審査員：楨文彦、岡部憲明、芦原太郎、小川晋一、鹿島昭一）に大庭晋・岡田周也（渡辺M2）他の案「IVY」が若手プロが応募する標記展に入選（15点）を果たした。案は、「蔦の壁」で被われた透明ポリカーボネートやガラスの住居である。「生活を制御する壁」として地被植物を扱い、意図は、エコロジカルな美学に対抗的な価値を試そうとしている。



特別養護老人ホーム 「うぐいすの里（仮）構想/東屋」 大学院生案 建設決定に

標記の健康クラブ88構想/東屋：四国八十八霊場巡りのミニチュア版「空海の道ウォーク」を東伊豆町の森林に作るとうとするもの。その各札所の案を全国の大学生等から募集した。それに法大大学院生/白川在・都祭俊一郎（渡辺M2）、安食公治（陣内M2）、増見収太（安藤M2）・中橋哲史（大江M2）がチャレンジ、建設案に選ばれた。案は厚さ24ミリのベニヤ板から、台形同一形状を切り出し接合してコの字断面の休憩所とするもの。



入選速報：建築学生・設計大賞2000 「居間のない家」に 大学院生3名

標記コンペに法大大学院生3名が入選した。この課題は、応募者それぞれが具体的家族像を想定、それに相応しい家を設計するもの。応募作品は、547作品の中から第一次審査10作品を選び、公開の第二次審査/プレゼンテーションを待って入賞が決まる。第一次通過者：白川在（渡辺M2）、山岡淳（渡辺M1）他1名。第二次審査の活躍を期待。

JIA / 卒業設計展に 石原篤君 銅賞受賞

日本建築家協会主催の標記展に石原篤君（渡辺M1）が[Dot Campus Project 1997-2000]で銅賞を受賞した。案は、都市のコンテクストを読み取り、大学キャンパスのエレメントをお茶の水、神田界隈地下鉄駅舎上など都市の中に機能を分散配置してゆくもの。



高村雅彦君建築学科専任講師に

高村雅彦君（88年卒、修92年）が2000年度後期より建築学科専任講師に就任した。中国蘇州水郷鎮の研究で博士号取得。中国北京の研究で陣内先生とともに建築史学会賞受賞。

著書：『中国江南の都市とくらし』（山川出版社-2000.12）他。担当：建築基礎演習B、風土建築論、建築史2A,2B、建築研究、卒業設計、アジア建築史特論